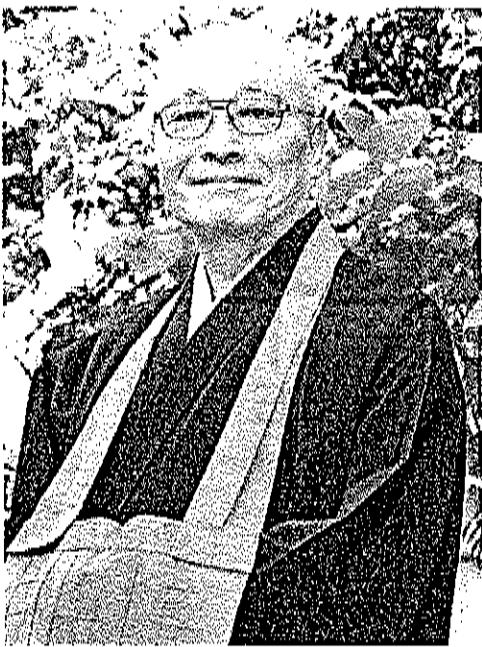


戦争に加担せず 心に刻み

岸田政権が安保3文書を閣議決定しました。多くの国民の異議申し立てに耳を傾ける姿勢をみじんも持たず、「専守防衛」を堅持してきたこれまでの方針の大転換です。

佛教大学名誉教授・
淨土宗平和協会理事長
廣瀬 卓爾さん



岸大軍拡異議あり

ア太平洋戦争に淨土宗がどうして参戦したか、史資料の検証を行っています。総力戦体制下で、非戦・反戦の立場を貫いて戦争の遂行に抗することができました。

國民主権をないがしろにし、平和主義を踏みにじり、ひたすら軍拡に向かう現政権の姿勢に大きな危機感を覚えます。

淨土宗平和協会は、アジア太平洋戦争に淨土宗がどう

収録した史資料は、教団の根本とも言つべき「教理・教学」を時代の異質思潮や戦争推進者の意図に合わせて変質させ、変質させた

私たちが尊重し、また誇りとしてきた平和主義憲法のいっそくの堅持に注力し、戦争にすすむ流れを止めの時だと思ふます。

16世紀に真して平和を

(聞き手 加來恵子)

訴えた神学者・エラスムスは著作『平和の訴え』の中で、「(宗教者は時や場所を問わず) 平和を説き、平和をたたえ、平和を人びとの心の奥底に刻み込むべきであり、たとえ武力による紛争の解決を阻止する」ことができるとしても、決して戦争を是認したり戦争に参加したりすべきではない」と残しています。

世界のすべての宗教者がかみしめるべき言葉だと受け止めています。世界のすべての宗教者がかみしめるべき言葉だと受け止めています。

私たちが尊重し、また誇りとしてきた平和主義憲法のいっそくの堅持に注力し、戦争にすすむ流れを止めの時だと思ふます。